

第5回 五ヶ瀬川水系流域委員会 要旨

主要概要

1. 第4回流域委員会議事の確認
(資料：第4回五ヶ瀬川水系流域委員会要旨)
2. 各分科会から報告のあった地区の整備イメージ紹介
各分科会意見及び第4回流域委員会の中での意見を踏まえ地区毎の整備イメージを紹介
3. 大瀬川下流部の現状について
近年、干潮時に河川水位が下がらない実態について説明
4. 内水対策に関する事項
外水被害に変わり増加してきた内水被害の実態紹介と松山・小峰地区における対策事業の説明
5. 住民意見の反映方法について
五ヶ瀬川整備計画に対する住民意見の反映手法紹介
6. 質疑応答
上記事務局よりの説明に対し質疑応答
(河川をカヌーの練習場、競技場として利用した事例の紹介)
7. 第6回流域委員会の開催について
日程調整を行い3月に予定

質疑応答

1. 各分科会から報告のあった地区の整備イメージについて

[分流地点]

- ・ 水制工の設置については、施設の安全性確保の面だけでなく、河川利用の面（漁業資源）からも議論が必要。
(事務局)整備計画メニューとして具体化すれば当然協議してゆく。
- ・ 背割堤(導流堤)による分派案では、通常時の適正な分派量調整は可能か。
(事務局)1つの可能性としての案であり今後検討を重ねてゆき、きちんとした回答を導いた上で結論する。

[鷺島地区]

- ・ 自然体験の場として整備してゆくには、野鳥の生息に適した高木の植栽やエサ（レンゲ）の確保が必要となる。
(事務局)地域との連携の形で整備計画に盛り込むことは可能かもしれない。

[五ヶ瀬川河口]

- ・ 第2導流堤をつくった時、今ある導流堤との間は掘削するのか。
(事務局)平水位以下に掘削した場合、現在の導流低部は航路となっているため水面が下がる可能性があり難しいことから、平水位がのらない程度の掘削が考えられるが、今後流下能力等検討し結果を出し示してゆく。

[岩熊井堰]

- ・ 現在、船通しの下流端に鉄板が打ち込んである理由を確認してほしい。
- ・ カヌー練習や競技場としての利用が提案されているが、川で生活している漁業者への説明も必要。又、環境が悪くなるのでは。
(事務局)岩熊井堰個別の話だけでなく、五ヶ瀬川の利用形態の中で地域の皆さんを川に近づけ、なおかつ地域の産業にもつながる話と川で生活されている皆さんと両方がうまくいく調整が必要。

2. 大瀬川下流の状況について

- ・ 隔流堤の水門をどのように管理していくのか。現在 40m 位ある開口部と水門のバランスはうまくとれているのか。
- ・ 河口閉塞の解消効果は本当にあるのか。
- ・ 上記問題が解消されないまま、隔流堤事業を進めると一度壊れた自然環境は元に戻らない。
- ・ 隔流堤工事に関する影響、効果を皆が納得できる回答を示してほしい。
(事務局)河床掘削の方法等、水門の大きさ等今後とも検討してゆきたい。

3. 内水対策に関する事項

- ・ (国土交通省が)家、地、人を中心に(内水)対策を立てるが、農業者にとっては農作物の水引きの関係等も十分対策を立てていただきたい。
(事務局)管轄の違いはあるが、連携という形で横のつながりをもってやっていく話も今後は出てくる。

4. 住民意見の反映について

- ・ インターネットによる方法は、人選についてどんな考えになるのか。
(事務局)人選という形ではなく、インターネットにアクセスされる方々すべてが対象。
- ・ アンケートの前提として、五ヶ瀬川に整備計画がなぜ必要なのかそれを五ヶ瀬川流域に住んでいる人たちにもっと啓蒙する必要があるのではないか。関心のない人にアンケートの場を与えてもこちらが求めるような結果は得られないのではないか。
(事務局)全く白紙の状態で聞くのか、委員会である程度まとまった時点でそれを参考資料として見せながら聞くのか、こういったやり方がよいか事務局としての考え方をまとめる。

5. 第6回委員会の開催について

- ・ 委員の皆さんの調整を取り3月に開催したい。
- ・ 次回の議論としては、

計画アセスのやり方を議論。

流域全体での取組みが必要なもの

(ハード的なものは、難しいかもしれないが、人々の支流を通じて等国土交通省が応援できるもの、地域が応援できるものを整備計画の中に位置づけたい。)